

研修名 ペアレントパートナー養成講座（幼児版）
平成 29 年 3 月 13 日（月）・14 日（火）

講習名 筑波大学 名誉教授
小牧発達相談研究所 所長 小林 重雄 氏
元 名古屋経済大学大学院 人間生活科学研究所 教授
名古屋経済大学 名誉教授 伊藤 健次 氏



1 講演要旨

KSKDペアレントトレーニングマニュアルが出来たのは、就学前の子ども対象のマニュアルとして作られました。それに用いる療法が応用行動分析学を取り入れたトレーニングです。このマニュアルは保護者に楽しく子育てが出来る手法として作成されたものです。また、虐待防止にもつながる手法として京都式を作成したものです。

1) 応用行動分析理論

① 行動の理解

・ A B C D E 分析…理論に基づいて
行なえば確実に行動が変わる枠組み
がある

- A 先行事象…原因は必ずある
- B 行動…良い、困った
- C 結果事象…すぐに褒めることで
褒美につながる
- D 手がかり刺激
- E 確率操作

② 行動の修正・抑制

- ・ 増加・活性化する
(言葉や生活習慣など)
- ・ 減少・消去する
(周囲が困る行動など)
- ・ 消去・形成する
(正しい方法を身につける)

③ 正の強化と負の強化

A → B → C …望ましい
行動を見つけ出し褒める
精神的な部分を褒めること
で、モチベーションが上がる
褒め方をする

④ 減少と消去

- ・ 正の強化、負の強化が行われない
(C : 無視 → 消去手続き)
- ・ A → B1 → 消去
→ B2 → 消去 < 反応系列の変容 >
などがある。

2) 正と負の強化の実例 (1)

- ① 飛び出し行動の実態…飛び出しの行動に対して保育士が追いかけてたり、手を繋いで連れ戻す
ことは全て、褒美につながってしまう
- ② 飛び出し行動の修正…興味のある活動の導入
飛び出し難い設定
シンクロナイズ (同じ行動を真似る)

3) 正と負の強化事例 (2)

- ・シェーピング (作り上げる) …積極的な自発行動、促進的援助を行う
- ・チェイニング (繋げる) …小さな課題を逆行から行ないクリアし課題を一つずつ繋げ目標を達成する

4) 対処する手段

- ・原因は何か
- ・必要な行動は何か…チェイニングの強化
- ・形成、増加、活性化と減少、消去、修正の方法は何か
- ・元の木阿弥とは何か (追跡調査を行う)

2 評価と振り返り

1) しっかりした願いをもって、一貫した子育てを行う。

親の感情によって、その時々異なる対応をしてはいけません。

何が良くて、何が悪いのか、子どもにはっきりと分かるように伝える。

2) 子どものあらゆる行動には意味 (原因と結果) があります。

特にその行動が起きる前の状況と起きてしまった後は何があったのかをしっかりと振り返る。問題行動の場合には、そのような状況を作らない予防的な対策そして事後の対応が再発を生じないような対応をする。

3) 子どもの望ましい行動を積極的に見つけ出し、褒める子育てをする。

「褒める=その行動が正しい」ことを子どもに知らせていると理解する。

望ましくない行動よりも望ましい行動に目を向けるようにすることが大切です。

4) 望ましい行動を学習するには、親がモデルを提示し、親子一緒にリハーサルを行います。

望ましい行動を獲得するために、日頃の子育ての中で、積極的にリハーサルを行います。子どもにも親にも練習が必要です。親子でリハーサルを実践しましょう。

5) どんな時もしっかりと目と目を合わせて (アイコンタクト)、しっかりと話をします。

子どもの視線と同じ高さで話をしましょう。

3 感想

自身の保育を振り返り、ベストのジッパーを簡単に上げられるよう配慮することを実践したり、保育士が子どもに靴を履かせる時に、靴を履かせ最後のマジックテープの部分子どもが付けるようにしました。目標にたどり着くまでの課題をスモールステップで進み逆行から行なうことで、課題を簡単にクリアし、靴を履くという目標が達成することが出来ました。今後も正の強化をつなげていく保育を心掛けていきたいと思えます。

